

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

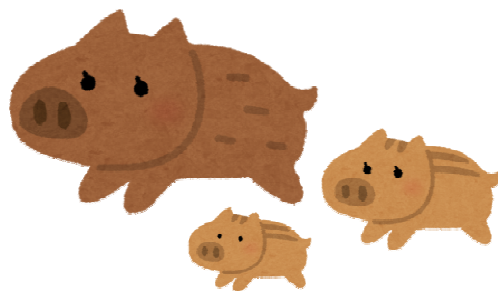
「サラリーマンがプロ野球選手に勝てる時代」

プロ野球・ジャイアンツの上原浩治投手(43)が昨年自由契約(その後異例の再契約)となりました。ワールドシリーズで胴上げ投手となったことは記憶に新しいところです。入団1年目から20勝投手となり、沢村賞受賞など、球団にとっては大功労者の部類のはずですが全く厳しい世界です。

彼の43歳という年齢はサラリーマンでいえばまだまだ若輩者扱いです。老後の心配がいらないくらいの蓄えはあるでしょうが、今後どうするのだろうか?と考えさせられます。金銭だけではない「生きがい」「社会とのつながり」を持ち続けられない人間は精神的な問題を抱えがちです。

プロ野球界は成功する者の何十倍の脱落者が存在します。入団1年目では年収400万程度の選手が多く、最近珍しくない大卒新卒者に対する高待遇企業での入社1年目の年収と差がありません。30代以降でも選手として契約できる選手は一握りです。生涯収入を考えるとプロ野球選手とサラリーマンとの差が無くなる時代がすでに来ています。

それを明らかにしたのは「プロ経営者」「カリスマ経営者」たちの巨額役員報酬の実態がクローズアップされた日産自動車問題でしょう。カリスマ経営者カルロス・ゴーンの功績である情け容赦ない組織の組み換えもプロ野球の世界では日常的なドライな決断と重なります。両者の金銭・仕事観の距離は確実に狭まっていると思います。



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎